

子どもの安全からみた交通環境 —道路を中心に—

大阪大学大学院 ビジネスエンジニアリング専攻 都市再生マネジメント領域
日本学術振興会 特別研究員 谷内 久美子

1

交通の話の前に 子育て中の親の心理的な葛藤

- 母親の方が父親よりも厳しい目にさらされている
- いまだに母親による子育てを最良とする風潮がある
- 「できて当たり前」「育児をするのは母親」
- 現在の母親は複数の規範に引き裂かれている
- 「家庭か仕事」「家庭も仕事も」「取り残される」
- 子育て不安(子どもの成長、育児能力、負担感など)

子育て中の親の葛藤を理解してほしい

参考: 若本純子他、「成人女性の葛藤 ワーク・ライフ・バランス、子育て、母娘関係をめぐる葛藤」、鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要, 5号, pp.15-28, 2010

2

交通の話の前に 子どもが大人になるまでに理解してほしいこと

- この社会は、信頼できるものであるということ
- 自分もこの社会の一員であるということ

交通環境からも、上記のことを学べるはず



3

子どもの移動は「発見」に満ちている

- 子どもは身体性の高い存在
- 道を歩くと…
 - 道ばたのスマシ
 - 虫、蟬の羽化、抜殻
 - 落ち葉をふみしめる感触
 - 水たまり
 - 空の色のうつり変わり
 - 近所の人との立ち話



4

現実の道路環境

- 現実の道路は身体性とは遠い存在
 - 安心して歩けない
 - 早いスピードで走る車
 - 歩道を走行する自転車
 - 防犯ブザーの携帯
 - 見知らぬ人への警戒心 (いかのおすし一人前)
 - ついていかない
 - のらない
 - おおごえをだす
 - すぐになげる
 - しらせる
 - 一人であそばない
 - でかける前にしらせる



5

道路の役割

日本の道路はトラフィック機能に特化
空間機能が弱い

機能		効果など
交通機能	トラフィック機能	自動車、自転車、歩行者などの通行サービス 道路交通の安全確保 時間距離の短縮 交通混雑の緩和 輸送費などの低減 交通公害の軽減 エネルギーの節約
	アクセス機能	沿道の土地・建物・施設などへの出入りサービス 地域開発の基盤整備 生活基盤の拡充 土地利用の促進
空間機能		都市の骨格形成、景観形成 都市のイメージ形成 都市景観の形成 緑化、通風、採光 避難路、消防活動、延焼防止 電気、電話、ガス、上下水道、地下鉄などの収容 「近所づきあい」の形成

6

どんな移動環境がのぞましいのか

- 安全な街路
 - 自発的な監視と相互治安活動が必要
 - 車両との分離
- ふれあいを得られる
 - 街頭でかわす数多くのささやかなふれあいにより信頼は作られている
- 子どもたちが歩道から学ぶことができる
 - 歩道は特化しない遊びを提供できる
 - 都市住民が街路に対して負う責任を教えてくれる

参考：ジェイン・ジェイコブズ、「アメリカ大都市の死と生」、鹿島出版会

7

住宅地の道路計画の原則

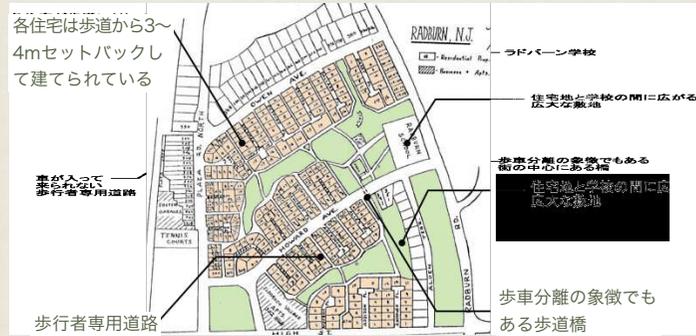
- アクセシビリティと安全・環境とのバランス
 1. 地区に用事のない通過交通を排除する。
 2. 地区に用事のある交通—地区住民自身の自動車、緊急車、サービス車—などのアクセスは、何らかの形で確保する
 3. 地区内を走行する自動車の速度を抑制し、安全で静かな住環境を保全する。

8

8

ラドバーン（アメリカの郊外型住宅地）

・都市と田舎を融合した生活（車社会・子供のための街づくり）



出典：緑園都市について —モデル都市ラドバーン http://homepage3.nifty.com/Ferris-GIS/GIS2003/r_history02.htm

9

日本の歩車分離の例（千里ニュータウン）



出典：大阪府：千里ニュータウンの再生について [http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/3158/00010838/2-2\(2\).pdf](http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/3158/00010838/2-2(2).pdf)

10

歩行者専用道路（こぼれび通り：千里ニュータウン）



11

11

通過交通の排除（クルドサック：千里ニュータウン）



12

12

歩車共存道路と交通静穏化

- 歩車完全分離の考え方は、一般的には多くの道路空間を必要とする。
- ⇒ 歩車共存道路
 - 自動車のアクセス機能を担保しながらこうした課題に応えようとして誕生したもの

13

13

ハンブ



出典：7レグ ラブ レス 真美ヶ丘 by P-con 国土建設, <http://mamigaoka.exblog.jp/d2009-04-04>

14

14

イメージハンブ



出典：「くらしのみちづくり」社会実験 | 世知原町: <http://www.pref.nagasaki.jp/kenhoku/kensetu/dourokensetu/HP/After4/index.html>

15

15

分離型共存道路（ソフト分離型）

- 自動車の速度抑制デバイスなどを単路部や交差点に配置
- 歩車道の段差を最小限にし、連続的な歩車分離施設（ガードレールなど）の代わりに離散的な車止め（ポロード）を設ける
 - ⇒ 歩行者の車道横断等を容易にしている。
- 交通静穏化対策（ゾーン30）

16

16

道路環境を変えていくには住民参加が必要

現在の道路環境は「公共性」に欠ける

公共性とは

個々の多様な発意の連携と
集合によって形成される

社会状況の変化に伴い、動的
に変化する

ある集合体と他の集合体に
とっての公共性は異なる可
能性がある

行政だけでなく、多様な主
体が連携して実施

変化や誤りをチェックし、
修正できる仕組みづくり

それぞれの地域特性に合わ
せて道路環境を検討する

17

17

子どもの移動環境を地域の問題にする

- 住民参加を促す要因になるのは共感
- 共感を得るためには体験してもらうことが重要



ワークショップ
まち歩き
社会実験

18

18

事例：谷中地区まちづくり協議会の取り組み

- ハンプ実験



【谷中地区まちづくり協議会 交通部会担当事務局】特定非営利活動法人 ひとまちCDC
<http://vanaka.fc2web.com/index.html>

19

19

事例：谷中地区まちづくり協議会の取り組み

- 車止め実験
- 既存の交通規制（16:00-18:00、平日7:30-8:30
自転車・歩行者専用道路）を守ってもらう



【谷中地区まちづくり協議会 交通部会担当事務局】特定非営利活動法人 ひとまちCDC
<http://vanaka.fc2web.com/index.html>

20

20